

6割が販売、予約済み

県が2014年8月に民間事業者にまとめ売りした内灘町白帆台と津幡町井上の荘の宅地分譲が進んでいる。当時売れ残っていた計125区画は5日時点で6割以上が販売、予約済みとなった。民間事業者が柔軟に価格を設定し、県や公社時代よりも割安になっていたことが売却が進んだ要因とみられる。

白帆台、井上の荘の宅地はかつて県住宅供給公社が販売し、2014年3月に解散した県土地開発公社を経て県に引き継がれた。県は同年8月に一般

白帆台、井上の荘宅地分譲

県 民間に売却の125区画



宅地販売が進む津幡町の井上の荘
|| 2015年12月、北國新聞社へ
リ「あすなろ」から

競争入札で白帆台60区画をさくらホームグループ(金沢市)に、井上の荘65区画を津幡町井上の荘販売共同企業体(JV)に売却した。

県によると、5日時点で白帆台は34区画が販売済み、3区画で予約が入り、井上の荘は40区画が販売済み、3区画が予約となった。まとめ売りされた宅地のうち、白帆台は61%、井上の荘は66%に買い手がついた状態だ。

公社時代は不動産鑑定士の評価を受けて価格を算定しており、価格交渉もなかったが、現在は事業者の判断で設定し、より需要に応じた価格になっているという。

井上の荘のJVを構成す

る企業の担当者は「地価の下落もあり、価格を下げた。公社時代より割安感が出ている」と説明する。モデルハウスの展示販売も行い、てこ入れを図っている。さくらホームの担当者は、価格の引き下げに加え、建て売りなど多様な方法で販促を図っていると話す。